

目次

まえがき（シンジルト）	3
調査概要（藤本杏）	5
経緯	5
音声データ表	8
地図	9
第1部 動物のパースペクティブ	11
はじめに（柳瀬達也）	13
第1章 猿とは動物と獵師の知恵比べなのか ——獣と人間における勝負——（川上晴陽）	15
第2章 野生動物はどうして変化に対応できるのか ——里山の今と昔——（福田真愛）	25
第3章 獵師は動物より常に優位に立っているか ——マルチスピーザーズの視点から——（上妻叶）	37
第4章 猿における主役とは誰なのか ——動物の位置づけの再考——（柳瀬達也）	49
第2部 人とけもののインターフェース	59
はじめに（谷川響）	61
第5章 イノシシとはどんな動物か——世間と獵師——（谷川響）	63
第6章 道具か家族か——獵犬のポジション——（松本悠里）	73
第7章 ジビエか、それともペットか ——多良木町における幼獣の位置づけ——（水谷はつの）	83
第8章 獵師の感じる狩猟肉の美味しさとは——野生と家畜——（河野晴香）	95
第9章 現代獵師はどのように自然と向き合うのか ——生活と狩猟——（藤本杏）	105
第3部 獵師のイムポンダラビリア	117
はじめに（前田響子）	119
第10章 変化した習慣はあるのか——現代の獵師——（前田響子）	121
第11章 獵師は幼少期に何をしていたか——遊びと家族——（長谷川瑞月）	133
第12章 飼猟が持つ新たな可能性とは ——変わりゆく狩猟スタイル——（中島大知）	143
第13章 怪異への恐怖は山の神信仰の理由づけになるか ——風習とその継承——（酒井大地）	155
第14章 山の中の変な音を誰が起こしたのか ——慰靈碑と山の神——（ディリフ）	167
あとがき（上妻叶）	179